

工業会活動

“ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2020”に出展

2024年国際航空宇宙展（JA2024）の開催告知・

全国航空機クラスター・ネットワーク（NAMAC）の紹介を実施

2024年国際航空宇宙展（JA2024）の開催告知、及び、全国航空機クラスター・ネットワーク（NAMAC）の活動紹介のため、2020年11月27日（金）～28日（土）に福島県・郡山市で開催された「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 2020」に出展・参加したので紹介する。

1. ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 2020の概況

(1) 開催概要

開催日程：2020年11月27日（金）～28日（土）

ビジネス向け展示会 11月27日（金）

一般向け展示会 11月28日（土）

開催場所：ビックパレットふくしま

（福島県・郡山市）

主催者：福島県

(2) 展示会の概況

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、過去の展示会で行われていた県知事などを招待した開会式・テープカットなどのイベントは、密となることを避けるため行われず、司会者（オープニングMC）による開催の告知、当日の講演案内などに止まり静かな開会となった。

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 参加者数

2020年（注1、2）			（参考）2019年（注2）	
開催日	参加者数	（参考）オンライン 視聴者数（注3）	開催日	参加者数
11月27日	約1,400人	497人	11月22日	約2,400人
11月28日	約1,600人	83人	11月23日	約5,600人
合計	約3,000人	580人		約8,000人

注1：主催者発表、ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2020 HPより。

注2：福島県HPより。

注3：オンライン視聴者数は、各講演や各プレゼンテーションの視聴者数を累計した数字を参考値として記載。



テストサイト間の協力に関する協定締結式



講演案内

来場者は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、事前登録制となり、会場への入場者数も制限されるなどの対策がとられたこともあり、昨年に比べ少ないものとなった。

また、講演に先立ち、「福島ロボットテストフィールド」、「国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）」、「大分県産業科学技術センター」の3者による、「空の産業革命」実現に向けたテストサイト間の協力に関する協定締結式」が行われた。

初日の講演では、(株)IHI航空・宇宙・防衛事業領域 事業推進部長 山本 博士 氏による「IHIの航空宇宙分野への取り組み」と題した講演をはじめ、ロボット、ドローンに関連した講演が行われた。

この展示会は、「航空宇宙フェスタふくし

ま2020」と「ロボットフェスタふくしま2020」という2つの展示会から構成され、これらの展示会が同一のフロアにて開催されていた。

「航空宇宙フェスタふくしま2020」には、SJACの会員企業から、(株)IHI、(株)島津製作所他が出展、また、国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）による小惑星探査機「はやぶさ2」の実物大模型展示に加え、東北・北関東などの航空機クラスター企業・関係機関を中心とした出展がされていた。

また、特色のある展示として「福島ロボットテストフィールド」の活動・事業内容の紹介展示があった。

それぞれの出展者数など展示会の規模は次のとおり。

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 展示会規模

	2020年（注2）	（参考）2019年（注2）
“航空宇宙フェスタ”	40社・団体	45社・団体
“ロボットフェスタ”	76社・団体	79社・団体

2. SJACの活動概況

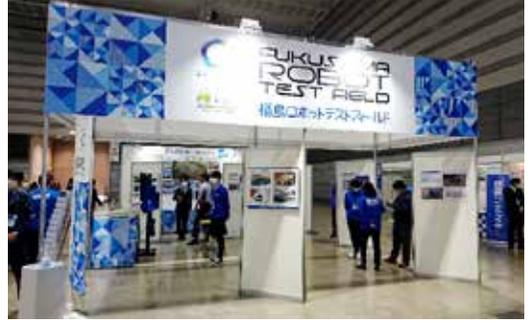
(1) 2024年 国際航空宇宙展（JA2024）のPR活動

SJACは、前回の展示会から開催間隔が6年

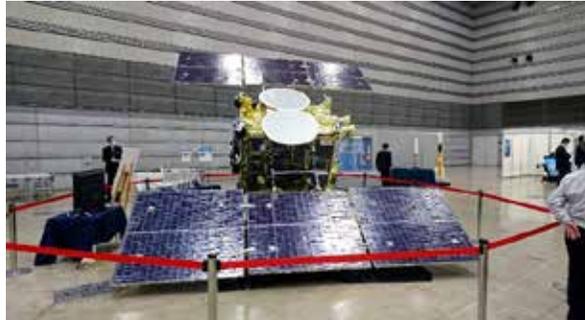
と開くことからJA2024の知名度の維持・向上を目的としブースを出展、2024年の展示会開催に向け開催告知に重点を置いた活動を実施した。



エンジン模型展示 (IHI)



福島ロボットテストフィールド展示Booth



小惑星探査機「はやぶさ2」の実物大模型 (JAXA)

SJACブースには、東日本の各地方自治体の航空機クラスター関係者の来訪が多数あり、次回の国際航空宇宙展の2024年開催についてPRすることができた。

また、過去の国際航空宇宙展出展企業の関係者、一般の航空宇宙関係企業の関係者からの来訪に関する問い合わせなど、地方自治体のJA2024に対する関心の高さがうかがわれ、これらの方々に対する有効な説明・PR活動が出来た。

(2) 全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC) の紹介

NAMACは、その事業の知名度向上のための紹介・意見交換等を行うと共に、NAMAC未加入の各地方自治体の航空機クラスター関係者への新規参加提案に重点を置いた活動と、異業種への展開の可能性の基礎情報の調査を実施した。

意見交換・新規参加提案においては、地方自治体を中心とした2つの航空機クラスターにおいて航空機産業参入に関する分野でのNAMAC事業との有効な協力関係の可能性を共有した。

異業種への展開の可能性においては、航空機産業の効果的な関与は、そこに使用される部品の仕様等から、特に固定翼型機を中心とした大型飛行型ドローンでの分野が有力な候補であると推察された。今後もその動向に注目して行く。

3. 所感

本展示会は、大規模な展示会ではないが、“ロボット”と“航空宇宙”にテーマを絞った展示会となっていたこともあり、会期初日の“ビジネス向け展示会”には、広く東日本から多数の自治体の航空機クラスター関係者、企業関係者の来訪があり、“航空宇宙”に



SJAC JA2024 PR Booth

焦点をあてた充実した展示会であったと感じた。

会期2日目の土曜日には業界の方々に加えて、地元の航空宇宙やロボット最新技術に興味を持っておられる多くの方がブースに来訪された。未就学児から業界に興味を持つ大学生まで若年層の関心も強かった。

来訪された方々からは工業会活動への質問や航空宇宙業界のコロナ禍での業績、新規採用状況や活動回復の見通しなど、地方では知ることが困難な「世界の業界情勢や日本の業界がどんな位置にいるのか」などが多く質問された。更には航空宇宙業界に参入する希望を持って、他業界での技術や実績が通用するものかを尋ねる業種転換の情報を模索する中小の経営者や営業あるいは技術の責任者も土曜日に多く来訪があった。

入場制限下での来場とあって目的意識の高い来訪者が多く、従来に比較すると来場者が密でない割には足を止め質問する方々が目立った。

ステージでは福島空港のANAグランドスタッフによるダンスや最新技術の講演などが披露され、会場では紙飛行機の製作体験や傘袋を使用するロケット製作体験などが開かれ、多くの子供たちが製作や作品の飛行を通じて航空宇宙の一端に触れ合い、会場はにぎわっていた。



ANA 福島空港スタッフによるダンス

国際航空宇宙展事務局	部長	櫻井	浩己
国際航空宇宙展事務局	部長	長井	利幸
調査部	部長	澤井	規行